

大塚中学校2年生

確認			審査・承認	起案
先生	保護者	本人	校長先生	ビッグ合成
		/	/	/ 杉浦

2年 組 名前〔 〕

テーマ 「もったいない！活かせば宝」 ～知識から知恵へ～

1. 「なぜ勉強するのか？」との問いについて

※前提として、子供は親や国にとって(**宝**)である。そして国の教育水準(**人間力**)が国力を上下させる。

そのために日本国憲法には、国民の義務として「教育の義務」(26条2項)、「勤労の義務」(27条1項)、「納税の義務」(30条)の3つを定めている。

※基礎学習教育(義務教育)、つまり、小学校・中学校における教育の目的は次の3つです。

- 子供に「集中力」をつけさせる ⇩
- 子供に「考える力」をつけさせる ⇒将来にわたって役に立つ
- 子供に「情報を正しく読み取る力」をつけさせる ↗

※「学習」と「勉強」の違い

「学習」は「学」と「習」……「学び」「習って身に付ける」こと
「勉強」は「勉」と「強」……「強く」「勉(つと)める＝無理して行う」こと
よって「勉強」は「無理を強く行なう」事なので「つらい経験(試練)」の意味でも使われます。

※[3つの能力の使い道]

生活をする為の「お金稼ぎ」そして「社会貢献し、人類が進歩する為の貴重な一助いちじょに」

※会社においても社員教育がなされている。〈例〉新人教育

※約100年前の創業時から今日まで変わらないゲンゼ(株)の「三つのしつけ」

1. (**挨拶**)をすること
2. (**履き物**)をそろえること
3. (**掃除**)をすること

誰でも出来ること、非常に簡単なことを実行しつづけてきた。

※勉強することによる具体的で直接的で切実なメリット

〔自分にとって〕

1. もっと楽しく遊べる。
2. もっと楽しく仕事ができる。
3. もっとすばらしい友達をたくさん作れる。
4. 騙されてひどい目にあいにくくなる。

「自分で判断し、結論を出し

自己責任 → 他人に迷惑をかけない
友人、知人、恩師に相談すること」

「人生を楽しく生きる」

〔社会にとって〕—より良い社会が築かれる。

2. 戦後、日本経済の高度成長の変化(インフレからデフレ)

※経済⇒経世済民⇒(世を治め、人民を救う)

「所有権から使用权へ

土地神話は崩れた」

土地を所有していればお金儲けが出来た。

※物事には、「表」があれば「裏」がある。その奥に「陰」があり、更にその奥に「闇」がある。

(本音と建て前)

※現社会を切り拓く5つのキーワード

- ①文明より文化
- ②知識より知恵
- ③利益集団より生活集団(仲間作り)
- ④切捨てよりお互い様(おすそわけ)
- ⑤燃やすことより生かすこと

※今までの「欲望経済」から、これからは「奉仕経済」へ移行する。

「欲望経済」とは

- ①自分(達)がどれだけ富があるのか。
 - ②自分(達)の会社はどれだけ儲かるのか。
 - ③どれだけ自国の GDP があるのか。
- といった「利益」を哲学においた経済

「ウソ・ダマシ等通用しない時代に入った。
(インターネット情報)→本物・真実の重要性」

アダム・スミスの「国富論」をもじって

自分だけが豊になる「僕富論」から相手が豊になることを考える「君富論」

「奉仕経済」とは

- ①経済原理を使っていかに社会問題を解決できるか。
- ②自分の会社だけでなく、他の会社、他の人も幸せにしていく。
- ③GDP(国民総生産)だけでなく、GNH(国民総幸福量)をいかにあげていくか、といった「社会性(公益)」「幸せ」を哲学においた経済への進化であり、それは経済を動かす人間のメンタルモデルの進化(ネパール)

※(物資の豊かさ)の限界、それによって(価値観)の変化

3. 「うさぎとかめ」 紙芝居(イソップ物語)

読み聞かせ 長木校長

うさぎの目線は勝つこと(**対抗意識**)を目標 (油断大敵)明治時代
かめの目線はゴール(**自己満足**)を目標 (努力礼賛)(一生懸命)

^{ひい}秀でる才能がなくても地道な努力をすれば報われる

「 **継続は力なり** 」 **コツ・コツ**⇒ イントネーション ⇒ **コツ**
「秘伝」「奥義」には、「知識」から「知恵」にかえる「 **整理整頓** 」が必要

(**知識**)では役に立ちません。(**知恵**)になって(**実践**)して初めて実生活に役立つ！
整理—必要な物と不要な物を(**区分**)して、不要な物を(**処分**)すること。
整頓—必要な物がすぐに取り出せるように(**置き場所**)(**置き方**)を決め、(**表示**)を
確実にこなうこと。
何とかしたいという(**あきらめない**)気持ちが、知恵を生み出す(**原動力**)

4. 成功の三要素 『 運 ・ 鈍 ・ 根 』

※古河財閥の創業者 古河市兵衛[天保3年(1832年)～明治36年(1903年)]

「運は鈍(粘り強さ)でなければつかめない。利口ぶってチヨコマカすると運は逃げてしまう。
鈍を守るには、根がなければならぬ」

※式辞・告辞集 平成18年度東京大学学位記授与式総長告辞

平成19(2007)年3月22日

東京大学総長 小宮山宏

「鈍」→つまり愚直です。愚直とは、おろかなほど正直なことです。より正確に言えば周囲から愚かに見られるほど、自分の信念に忠実に行動することを指示します。
(要するにどんな困難や逆風にも耐える図太い精神(素直な人格)を持つこと。)

「運」とは「恵まれる幸運」を示す。寝て待つという意味ではなく「鈍」「根」をよく実行した時
「運」は開ける。

「根」とは「ゆるみなき努力」仕事に対する愛情や研究向上心にも通じる。

三つのタイプの根 ①(**大根タイプ**) ②(**毛根タイプ**) ③(**イモタイプ**)

よって「人生での成功」=「運」×「鈍」×「根」 (ストレスのない安心環境)
根 生命力

「習慣」=「鈍」×「根」 それには「 **体力** 」という裏づけが必要です。

「つきの神様」=「恩人」×「チャンス」

恩を重んじる日本人

その日本人の恩を恐れる外国人

働く—(^{はた}端)を(^{らく}楽)にする。

仕事—(志事)の大切さは出来ない発想から(出来る発想)の(転換)が必要です。

5. 「吾唯足知(われ ただ たるを しる)」



※「龍安寺の石庭」

京都市右京区にある臨済宗妙心寺派の寺院

※「吉呼員和」 信州安曇野の有明山神社

意味 「良い知らせや事柄を呼び込んでみんなが和やかになる」

地産地消、自然に逆らわない持続可能な社会・産業

「満足することを知っている者は、貧しくても幸せであり、満足すること知らない者は、たとえ金持ちでも不幸である。」

6. 人生30歳になった時に勝負が決まる。

明日に(夢)と(希望)が語れる世の中になって欲しい。30歳までには失敗を恐れずにがむしゃらに興味、趣味のある事柄に(チャレンジ)してほしい。

上杉鷹山 なせば成る、為さねば成らぬ何事も 成らぬは人の為さぬなりけり

その心得は

人が何かを成し遂げようという意思を持って行動すれば、何事も達成に向かうのである。

ただ待っていて、何も行動を起こさなければ良い結果には結びつかない。

結果が得られないのは、人が成し遂げる意思を持って行動しないからだ。

※運は親切をした相手の背中から来る(^{はっか}客家)

※桃栗三年柿八年

何事も成果が出るまでに相当の年月がかかること(実を結ぶ)

それでは大塚中学校2年生は(1年)

素直に知識を吸収し、知恵となって頑張って成功してほしい！

7. 小生の人生を振り返って(小学校から大学そして現在まで)

8. 日本人の心

おばすて山の話

長野千曲市